

《校内研修活性化の取組》 “主体的・対話的で深い学び”を教員自ら実践し、 専門性向上を図る

熊本県立松橋東支援学校

1 求められる特別支援学校教員の専門性

自立活動は、特別支援学校の教育課程において特別に設けられた指導領域です。ゆえにその指導のスキルは、特別支援学校の教員が有すべき専門性の一つです。特別支援学校のセンター的機能を果たす視点からも、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」という自立活動のねらいや在り方を適切に地域の幼小中高等学校へ伝えることができることは、大変重要です。

本校は、全教職員が30人に満たない小さな学校です。このような背景を受け、校内研修を通して、もう一度自分たちの自立活動の指導における現状をふり返り、互いが主体的・対話的に深く学び合うことで専門性の向上を図る取組を始めました。

2 本年度の研究テーマと方法

本年度の本校の研究テーマは、「自立活動の指導における適切な目標及び具体的な指導内容の設定について ―設定方法のプロセス化―」です。

自立活動の指導における子ども一人一人の目標や具体的な指導内容の設定のプロセスは学習指導要領解説に記されています。しかし、実態把握から目標や指導内容の設定までには、幾つもの手順と専門的な知識を要します。学校組織にはベテランから初めて特別支援学校に勤める教員もいます。その中で、どの子どもにもより適切な自立活動の指導を行うための工夫が必要です。そこで、全員参加型のワークショップを中心に取り組むことを通して、ベテランの経験値と若手職員の新鮮な発想を取り込んで、互いに主体的・対話的に深く学び合うことが専門性の更なる向上につながると考えました。

3 全員参加のワークショップと研修感想の共有

ワークショップは、1回目の本年度の研究概要の説明から取り入れました。研究部の説明を聞いた後に、本研究の取組はどのような成果が期待できるのか、どのように改善したらいいのか等についてグループ協議をして発表し合いました。2回目からは、自校の子どもたちへの具体的な事例検討の前に、研究テーマに沿って、シミュレーションを行いました。ある程度の共通理解が図れた5回目に、やっと自校の子どもたちについて協議をしていきました。ワークショップを重ねることで、学習指導要領に記されているプロセスを軸とし、多角的な視点から問題を解決していく教員の姿が見られるようになりました。

表1は、これまでの主な研修スタイルと事後評価・アンケートの抜粋です。事後評価は、5件法で「1 とても有意義だった」から「5 全く有意義ではなかった」とした結果の平均値です。事後アンケートは、研修スタイルに関するものを抜粋しました。



表1 主な研修スタイルと事後評価・アンケートの抜粋

回	研修スタイル	評価	事後アンケートの抜粋
1	全体説明 本年度の研究についてのワークショップ（良かった点、改善点）	1.9	<ul style="list-style-type: none"> 付箋に思い付いたことをどんどん書いて、グループの先生方との話し合い活動がやりやすかった。 研究についてコミュニケーションがとれる場になるように、普段から考えていることを話す研修を次回もしてほしい。
2	全体説明 ワークショップ1（課題関連図の作成） ワークショップ2（良かった点・改善点）	1.8	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合った後、ほかのグループの見学に行けたのは良かった。それぞれで考えが違ったり、いろいろな意見があることが分かった。 みんなで具体的に目標設定に取り組むことは専門性を高めるためにはとても必要だと思う。
3	全体説明 ワークショップ（シミュレーション）	1.7	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップは、話し合いながら作業が進めることができるので分かりやすい。 一人だと悩むのでグループにしてもらいたい。
4	ワークショップ（シミュレーション）	1.8	<ul style="list-style-type: none"> 一人でなくて、グループで話し合うことで、いろいろな意見を聞いて、納得することができた。
5	具体的な事例検討	1.5	<ul style="list-style-type: none"> みんなで意見を出し合って課題の抽出をしたので分かりやすかった。また、課題関連図を考える中で、いろいろな課題の捉え方などの話し合いができて良かった。
6	具体的な事例検討	1.6	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな意見を出していただいたので、自分自身とても学ぶことが多かった。 前回よりどんどん意見や考えが出てきた。グループですると、たくさん意見や考えが出るので良いなと思った。

研究会時には15人から20人しか参加できない状況ですが、評価は上向き傾向にあり、アンケートの内容からも、グループでのワークショップを行うことで他者からの意見の重要性や視野の広がりが感じられます。また事後アンケートの結果を職員間で共有していくことで、研究の何を互いが良いと感じたのか等、他者の研修や研究に対する考え方も知ることができます。もちろん、改善点や研究部へのアドバイスなど、出された意見はすべてオープンにします。何より、みんなで研究に取り組んでいることをみんなが共感できることが大切だと思います。

4 チャレンジ

本年度からの研究の取組は2年間を目途に取り組む予定です。この取組を本校共有の財産にし、かつ地域の幼小中等高等学校へ広めていくためには、みんなで意義や課題を考えていった結果、誰もが同じレベルで、自校の研究の成果と課題を自分の言葉で語れることが大切です。学習指導要領の改訂に当たっては、“主体的・対話的で深い学び”が求められています。まず私たち教員が、互いの専門性向上のために、自らこれを実践することから始めているところです。

